

たまねぎの病害(白色疫病とべと病)に 注意しましょう！

たまねぎで、白色疫病やべと病などの病害が増加しています。発生予察巡回調査(5月9日、阪南市・岸和田市)において、前回調査(4月25日)と比較して、発生の増加が確認されました。

春期の初めは、概ね気温が平年と比べやや低めで、降水量も平年並であったことから、これら病害も少な目でしたが、4月中旬から5月上旬にかけて、気温はやや高く、降水量もやや多めであったため増加傾向にあります。

今後も、気温がやや高めに推移し、降水量もやや多めに推移すると予報されていることから、発生が急に増える恐れがあります。

この時期から収穫前に、これら病害にかかると球の肥大が悪くなり、収量の減少や品質が低下します。ほ場をよく見回り発生に気をつけ、下記事項に注意し防除に努めましょう。

たまねぎのべと病と白色疫病の見分け方

(べと病)

・主に葉に発生。春期に発生する二次病斑は、黄色で大型の長卵形から楕円形をした病斑を生じる。病斑上に、白または暗紫色のかびが生えることが多い。

(白色疫病)

・主に葉に発生。初め中央部付近に、不整形で周縁部がやや不鮮明な油浸状、青白色の病斑。拡大すると葉は下垂しよじれる。被害が進むと、株のほとんどの葉が白色の葉枯れ状となる。

<防除対策>

(耕種的防除)

- ・排水を良くする。
- ・被害葉や被害株は速やかに、ほ場外へ持ち出し処分する。

(薬剤による防除)

- ・予防散布に重点をおく。
- ・発生を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。



たまねぎ(べと病)



タマネギ(白色疫病)

＜参考:発生予察調査結果＞ 各市2地点・各地点25株調査

・白色疫病・阪南市	(4月25日) 8.0%	(5月9日) 6.0%
岸和田市	(4月25日) 28.0%	(5月9日) 54.0%
・べと病・阪南市	(4月25日) 0.0%	(5月9日) 0.0%
岸和田市	(4月25日) 0.0%	(5月9日) 8.0%

＜参考:登録薬剤:たまねぎ(白色疫病・べと病)＞

シマンダイセン水和剤	(白色疫病) 400～500倍 3日/5回
	(べと病) 400～600倍 3日/5回
リトミル MZ 水和剤	(白色疫病) 500～750倍 7日/3回
	(べと病) 500～750倍 7日/3回
ホライスントライフロアブル	(白色疫病) 2,500倍 3日/3回
	(べと病) 2,500倍 3日/3回
プロポーズ顆粒水和剤	(白色疫病) 1,000倍 7日/3回
	(べと病) 1,000倍 7日/3回

◎防除薬剤については、

- Web 版大阪府病虫害防除指針(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

にて確認してください。